

研究テーマ	<p>[IV 見方や感じ方を広げ、深めること]</p> <p>日本と諸外国の絵画を比較し、日本の美術文化や伝統に対する関心を高める題材の工夫 ～ 校内美術館における鑑賞学習を通して ～</p>
-------	--

東茨城郡城里町立常北中学校 教諭 中川 匡弥

1 研究テーマについて

絵画は、顔料と油を用いた油彩画、顔料と膠を用いた日本画、水彩絵の具を用いる水彩画などと、絵の具などの材料からジャンルを区別することができる。油彩画などはヨーロッパを中心に起こった絵画であり、日本画は日本の文化の中で生まれ、世界の美術の中でも独特の美しい効果をもつ優れた絵画とされている。

歴史的には、日本の絵画と西洋の絵画の交流があり、それぞれに影響を与えたり受けたりしながら発展してきた流れがあるが、日本画と油彩画がもつ雰囲気や色彩を比較すると日本画には色や形、線描の美しさだけでなく、受け継がれてきた技や昔からの伝統的な表現様式などがあることに気付く。

そこで、日本画の中でも伝統的な掛け軸と諸外国の油彩画をともに鑑賞することで、それぞれがもつ独特の表現のよさや美しさを感じとることができ、日本の伝統文化についても知る機会となると考える。

さらに、美術館等での絵画鑑賞の経験が少ない生徒にとっては、作品を自分なりの感じ方で鑑賞し、学芸員の解説や友だちの感想を聞くことによって、自分らしい見方を見出し、作品のよさや美しさを味わい、作品への理解や見方を広げることをねらいとした。

2 実践事例

(1) 題材 色の世界を楽しもう

(2) 目標

- ・ 日本画と油彩画のもつ雰囲気や色彩に対して興味・関心をもち、作品に対する理解や見方を広げようとする。
(美術への関心・意欲・態度)
- ・ 自分なりの見方、感じ方で主体的に鑑賞し、日本画と油彩画の絵画のよさや美しさを感じとることができる。
(鑑賞の能力)

(3) 題材について

日本の美術に関する事前アンケートでは、資料集に載っている作品や作者について、聞いたことはあっても美術館等で作品を見たり作品の意味を知ったりしている生徒はほとんどいない状態である。

美術館で絵画などを鑑賞した経験をもつ生徒がほとんどいないことから、美術館から複製画を借用し、「校内美術館」として諸外国の絵画と日本の掛け軸を展示し、鑑賞本来の意義であるじっくり作品を見ることを通して、絵を見ることのおもしろさや楽しさを感じられるように場を設定したい。

また、掛け軸を展示する場面を再現したり、諸外国と日本の絵画について地域の美術館から学芸員をゲストティチャーとして招き解説を加えたりすることで、諸外国の絵画と日本の絵画の雰囲気や色彩の違いなどを感じ取りやすくなるようにしたい。

鑑賞はとかく受け身になりがちであるが、学習を通して主体的な鑑賞態度を養うだけでなく、友だちと共に鑑賞し友だちからの違った見方を得ることで、新しい感じ方に触れ、自分の見方を広げたり、日本と諸外国の絵画のよさや美しさを感じ取ったりすることができるようにしたい。

(4) 指導計画（3時間取り扱い）

時 間	学習活動	評 価 規 準			
		関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1 本 時	日本画と油彩画の雰囲気と色彩を感じ取る。	日本画と油彩画のもつ雰囲気や色彩に興味・関心をもとうとする。 (観察・ワークシート)			鑑賞を通して、作品のよさや美しさを感じ取ることができる。 (観察・ワークシート)
2～3	日本の伝統的な色や図柄を知る。	日本の伝統色や色の呼び名、色彩や図柄に興味・関心をもとうとする。 (観察)			日本の伝統色をもつ色彩や図柄の構成の美しさを感じとることができる。 (観察・ワークシート)

(5) 本時の学習


◇ 目標

- ・ 日本画と油彩画の鑑賞を通して、日本的な雰囲気や色彩に気付くことができる。

◇ 準備・資料

- ・ 複製画（油彩画・日本画）、ワークシート、はさみ、チラシ、紙袋

◇展開

学習内容・活動	教師の指導・評価（評）は評価の視点・方法
<p>1 絵画の見方について知る。</p> <p>①描かれている場面 ②作者の表現意図 ③絵の雰囲気 ④色からの感じ</p> <p>2 油彩画と日本画の雰囲気と色彩を感じ取る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>雰囲気と色彩を探そう</p> </div> <p>(1) 油彩画を探そう</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 油彩画の複製画を1枚提示し、様々な見方ができることに関心もてるよう、①②について簡単に触れ、③④について特に注目できるよう支援する。 ・ 美術館等での鑑賞の際の基本的な注意事項やマナーなどについても触れる。 ・ 油彩画と日本画について、作品から感じられる雰囲気と色彩に視点を置き、鑑賞できるよう支援する。 ・ 油彩画の作品を美術館学芸員の説明を受けながら鑑賞し、雰囲気や色彩について感じ取れるようにする。 ・ 油彩画の複製品9点を展示し、自分の見方や感じ方で鑑賞できるように支援する。 ・ 複製画から感じられた雰囲気や色彩などについて、互いに意見交換しながら鑑賞できるよう支援する。

(2) 日本画を探そう



(3) 日本画と油彩画の色彩を比べよう。

予想される生徒の気付き

	油彩画	日本画
雰囲気	・遠近感がある ・鮮やかな感じ	・静かな感じ ・平面的な感じ
色彩	・鮮やか ・混色された色 ・多くの色を使用	・暗い色 ・濁った色 ・淡い色 ・色数が少ない

4 日本の雰囲気の色を収集する。

4 本時のまとめをする

身近にある日本的な色彩と伝統を知る。

- ・鯉のぼり・風呂敷・手拭いなど

- ・ 掛け軸を展示する場面から見せ、日本画に対する興味・関心を高められるようにする。
- ・ 日本画の作品を美術館学芸員の説明を受けながら鑑賞し、雰囲気や色彩について感じとれるようにする。
- ・ 日本画の複製画5点を展示し、自分の見方や感じ方で鑑賞できるように支援する。
- ・ 複製画から感じられた雰囲気や色彩などについて、互いに意見交換しながら鑑賞できるようにする。
- ・ 油彩画と日本画の複製画から、色の違いに注目しながら比較鑑賞し、日本的な雰囲気の色と西洋的な雰囲気の色に気付くことができるよう支援する。
- ・ 日本画は自然のよさや美しさ、人々の暮らしなどと深い関わりをもっていることに気付くよう支援する。
- ・ 雰囲気については、表現されている場面から聞こえてくる音や声などを感じとることで、より印象強く鑑賞できるように支援する。

(評) 作品のもつ雰囲気や色彩を自分の見方で感じとろうとしている。

(美術への関心・意欲・態度 観察、ワークシート、言葉がけに対する反応)

- ・ 油彩画と日本画の鑑賞から感じた日本的な雰囲気や色彩をもとに、チラシやポスターなどから日本的な色を探し出し収集できるように支援する。

(評) 日本画のよさや美しさ味わい、日本的な色を感じとることができる。

(鑑賞の能力 観察、収集した色)

- ・ 身近にある伝統の色と文様を知り、日本の伝統について確認し、次時の学習への興味・関心が高められるようにする。

3 成果と課題

油彩画と日本画の雰囲気と色彩を感じ取る場面では、自分らしい見方や感じ方で、思いのままに鑑賞したことで、自分の言葉で感じたことを素直に書き出すことができるようになった。

また、互いに自分の感じたことを伝え合ったり、確認しあったりすることで、一枚の絵画から様々な感じ方ができることに気付き、新たな発見へとつながった生徒もいた。

鑑賞の場面や日本的な色を収集する場面では、主体的な活動が見られた反面、展示作品に使われている色彩にとらわれ過ぎてしまう傾向が見られた。

日本画の雰囲気と色彩を感じ取りやすくするために横山大観や川合玉堂の作品を展示したが、同一画家の作品であるため、色彩に大きな変化が見られなかったのも原因と考える。今後は多くの日本画家の作品を取り上げることで、日本画の多様な色彩についても学びを深めさせていきたい。

身近にある日本的な色彩と伝統を知る場面では、参考資料として準備した鯉のぼりや風呂敷以外にも千代紙や着物、帯などの色彩や文様に古来からの伝統が生きていることに気付くなど、身近な生活用品へ対する興味・関心へと結び付けることもできた。

次時に行った日本の伝統的な色や図柄を知る学習では、チラシなどから探し出した日本的な色彩を用いて、日本の伝統色をもつ色彩や図柄の構成の美しさを体験的に学習した。

収集した色を用いて、「日本的な雰囲気」「日本的なイメージ」をテーマに、台紙の形やサイズなどを含めて自由な発想でコラージュによって表す活動とした。



色の世界を楽しもう
1年 国 豊 氏 氏

油彩画と日本画を比較しよう

	油 彩 画	日 本 画
どんな表現手法？	・油彩画は油絵具で描く。 ・絵具の色が鮮やかで、厚塗りできる。 ・（人から中心）	・墨と色で描く。 ・筆で描く。 ・（中心から人へ）
どんな色彩？	・白黒のコントラストが強い。 ・色味は比較的薄い。 ・（人から中心）	・色味は比較的濃い。 ・白黒のコントラストが強い。 ・（中心から人へ）



色の世界を楽しもう
1年 国 豊 氏 氏

タイトル	花開く せしず
表現のイメージ	白で背景を塗り、 色を添える。 （中心から人へ） 花の咲く姿を表現。 （人から中心）

日本画の色彩や構成，雰囲気などをもとにコラージュをしていくと予測し実践をしたが，実際には伝統的な文様や日本文化について興味・関心をもった生徒も多く，「扇子」や「花火」などといった日本の文化をイメージに加えた生徒も多かった。



色の世界を楽しもう
1年 組 氏名 _____

タイトル	花火
表現のイメージ	遠くの花火が 空を とよみはる 夜空を 表現した。

鑑賞と表現の相互性をどのように学ばせ気づかせていくのか，学習活動を展開していくための新たな課題となった。

今回の学習では，地域の美術館から学芸員をゲストティチャーとして招き，専門的な立場から作品の鑑賞の仕方や作品の解説をしていただき，ワークショップの要素を取り入れたことで，見方や感じ方を広げ深められたと考える。

さらに，本題材以外の部分として，美術館の仕事や学芸員の資格取得に関することについてお話していただき，キャリア教育にも関連性をもたせた学習となったことで，美術館に対する興味・関心をもつきっかけとなったと考える。

今後は，周辺地域の美術館や博物館などの機関や，画家や陶芸家など美術に関わる人々をゲストティチャーとして招いたり，他教科の教師とのティームティーチングをしたりするなど，様々な角度から個に応じた見方や感じ方を広げ深められるように研究を続けたていきたい。